

～えがおいっぱい ゆめいっぱい～

わきのしま

令和3年10月1日
多治見市立脇之島小学校
学校報 第12号

人とのつながりを絶やさぬように

夏休み明けは、まん延防止等重点措置、緊急事態宣言下での学校再開となりました。

本校では、学習活動においては、合唱や楽器演奏活動、密集・接触する運動の一時停止を行い、その他の教育活動においても、極力、学校外や学年間の直接的な関わりがないよう制限をするなど、今まで以上に飛沫や接触による感染を防ぐための取組を徹底してきました。

こうした状況での学校生活ですので、子供たちは、以前よりも不自由さを感じながら過ごした1ヶ月になったかもしれません。しかし、互いのよさや可能性を見いだしたり、自分たちの生活をよりよくしたりするためには、「人とのつながり」は欠かすことのできないものだと考えています。そこで、子供たちが人の思いを知ったり、自分の思いを伝えたりできる機会を絶やさぬよう、様々な工夫を行ってきました。



オンライン接続の勉強（人とのつながり方を広げる。）



認証式（オンラインを通して委員長の思いを全校で共有。）



委員会活動（オンラインでつながる異学年集団。）

以下は、ある児童の日記です。オンライン授業を通して、仲間に励まされ勇気づけられた経験と、仲間とつながり続けていきたいという思いが綴られています。

題名 オンラインのこと

先生あのね、私は、学校に行きたくても行けないときがあって、オンラインをする時間が、けっこう多くありました。

だけど、おうちでじゅぎょうを聞いていると、まるで学校にいるみたいでした。お友だちも先生もみんなやさしくて、友達が「学校に来たら、たくさんあそぼうね。」と言ってくれたのでうれしかったです。

たしかに、ずっと学校に行けないままはつらかったけど、みんなが元気を出させてくれたので、あきらめずに、ずっとオンラインじゅぎょうができました。

学校に行けるようになったら、お友だちのみんなとあそぼうと思いました。

今後も、コロナ禍で大変な状況は続いていくと思いますが、この子のように「人とのつながり」を通して、自分を思いやれる子、仲間を思いやれる子を増やしていけたらと考えています。